

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474400359		
法人名	NPO法人エルダーサポート協会		
事業所名	グループホーム愛の郷 神辺		
所在地	福山市神辺町上御領391-1		
自己評価作成日	令和2年9月25日	評価結果市町村受理日	令和3年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和2年11月17日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の周辺は田畑や緑に囲まれ豊かな自然と、近くには小学校もあり、のんびり暮らせる環境にある。昼間は車の通行量が少ないので、利用者の散歩等の利便性が高い。日課に体操やレクリエーションを取り入れ、認知症の進行予防に努めている。入居者理解に努め、個別の声掛けを工夫したり優しい声掛け・笑顔の対応に取り組んでいる。協力医との連携が取れている事で、利用者や家族に安心と安全が提供出来ている。介護度の重い方でも機械浴を使用し浴槽につかり満足して入浴して頂くよう努力をしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の優れている点は、①理念を基に各ユニットで年間目標を掲げて取り組んでいること。②ケース担当者を定期的に交替して、複数の視点で利用者のモニタリングをし、介護の質を保持していること。③ミーティングや勉強会など不参加者へも回覧・共有し、職員の教育的環境ができており、やりがいに繋がっていること。④職員相互の関係がよく、利用者がやりたい事をして笑顔で過ごしており、事業所の雰囲気明るく、家族の安心に繋がっていること。⑤残存機能を生かしてレクリエーションや体操・散歩などを日常的に行うことで、自立性を維持していること等があげられる。工夫点としては、介護記録が計画に沿ったものとなるよう番号付けで記録していることがある。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の入居者ひとりひとりに敬意と尊敬・慈しみをもって接する事の共有と実践に努めている。各ユニットで年間目標を掲げ「自分の親なら」の思いで利用者の思いや意向を確認しながら思いやりのある対応に努めている。	法人理念を基に、各ユニットで年間目標を掲げ取り組んでいる。利用者の思いや意向を確認し、各ユニット全体で共有し、話し合っている。管理者から声掛けをしながら理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「子ども110番」や小・中学校の職場体験等の受け入れに協力している。近所から野菜や果物・新聞紙・衣服等の提供があり、地域と日常的に交流している。	コロナ禍で地域行事に参加できない中でも、散歩時の挨拶や、地域からの野菜や果物・新聞紙・衣服等の提供があるなど日常的な交流がある。雨天時に子供が雨宿りをするなど、「子ども110番」の地域の役割も果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に散歩したり、玄関先での日向ぼっこやレクリエーションをする姿を地域の方に見て頂き、あいさつ等声掛けを大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催している。介護保険課・地域包括・町内会長・民生委員・本社の方々に参加していただき、利用状況や行事・研修会の内容等を報告。課題などを報告し、いただいた意見を事業所のサービス向上に努めている。	コロナ感染防止のため開催しておらず、メンバーに電話で中止を知らせた折に意見を聞いている。町内会長を通して車いすの提供があったり、包括支援センターに困りごとの相談をする等して、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、意見をいただいたり、介護保険課・生活福祉課などの窓口の担当者と必要に応じて日常的に連携し協力関係を築いている。	介護保険課・生活福祉課などの窓口の担当者と必要に応じて連携し、情報提供があるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1度、法人内の虐待と拘束の委員会に参加し、勉強した事や意見等をミーティングで発表し全職員で共有している。玄関から出て行こうとされる利用者に対しては一緒に出掛け拘束しないケアに取り組んでいる。	3か月に1度、法人内の虐待と拘束の委員会に担当者が参加し、事業所内のミーティング時に勉強会をしている。職員が共有して実践し、管理者からも必要時声掛けをして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	プロ意識を持ち笑顔の対応を心掛けている。気になる対応にはすぐに注意し先送りせず、職員同士で注意しあえる環境作りを心掛けている。本社のスキルアップ研修や委員会に積極的に参加し、勉強した事を職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見人制度を利用する事になった入居者の方がおられ、学ぶことが出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、書類(重要事項・契約書等)を通して、十分に説明を行っている。改定等があった際は、口頭の説明だけではなく書面にして理解・納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、本社から無記名のアンケートを送付する。月に1度、写真入りの「便り」と担当者からの入居者の近況を手紙で伝える。訪問時は会話を大切にすることで、意見や要望を頂き家族との信頼関係を築くとともに運営に反映している。	年に1度、法人から利用者家族にアンケートを行ない、事業所の運営に活かしている。家族からは来所時に聞いており、利用者・家族の「最期まで暮らし続けたい」という思いや要望などを聴き取り、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや月1回のミーティングでスタッフに意見や気付き・提案を聞きとり運営に取り入れている。また、日頃から個々とのコミュニケーションを図るように心掛け本音で話をする事で人間関係を築き、出された意見・提案を運営に反映している。	日頃から管理者が現場で職員の意見や要望を聴き、良好な人間関係を築いている。職員からは利用者のケアの改善に向けての意見や、行事企画、おやつ作りなど発案があり、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に勤務状態を把握し、遣り甲斐に繋がる声掛けや労いの言葉を掛け、対話を持ち仕事を楽しいと思える環境作りに努めている。努力を認め、感謝を伝える様に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社で行われるスキルアップ研修に参加を促し、学んだことをミーティング等で他のスタッフにも伝達、みんなで研修している。持っている技術や知識はその都度、安心・安全の対応をすべく伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所間での交流・研修会等で知り合った同業者とも交流を深め、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや願い・趣味・嗜好品等を聞き取り、笑顔で声掛けや対応を行うことで不安感を持たせない様に努め、他者との交流の橋渡しをして孤独を感じさせない様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの労をねぎらい、家族の思いや困っている事・要望・願いをしっかりと聞き取り、安心・安全の対応で信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に関わってきた施設等でしっかりと聞き取りをしたり、本人とご家族が何を一番に求めているのかを理解し、その要望に沿った支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は取り上げず、見守り支援する。洗濯たたみ・机拭き・新聞たたみ・野菜の皮むき等、お手伝いをしてくださった時は「ありがとう」「助かります」等の労いの言葉を添えて「役に立っている」との思いを感じていただけるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に、入居者の日頃の頑張りや様子を、来所時や手紙にしたため報告している。ご家族が来所し易い雰囲気づくり・声掛けを全スタッフが心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の関係で面会制限はあるが、家族・親戚・知人が気軽に訪ねてきやすい雰囲気づくりに努め、にこやかな対応を心掛けている。公民館での花見・母校への散歩・帰宅など馴染みの場に出掛ける支援をしている。	家族は、感染防止をしながら、玄関で面会をしている。職員がにこやかに対応して来やすい雰囲気づくりをしている。季節の花見や近隣の散歩を行い、人や場との関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わりを持てるように職員が間に入り、みんなにわかりやすい話題を提供し、一緒に笑える場・時間など楽しい雰囲気づくりに努めている。入居者がお互いの居室を行き来し関わられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りまでの対応をさせて頂いたときは、入居期間に撮った写真をアルバムにしてプレゼントしている。残された御家族にお会いした時は、近況をお尋ねしたり挨拶をかわし、繋がりを大事にしている。退去された後も来所やTELをして頂ける関係である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	優しく細やかな声掛けと笑顔の対応で、入居者が自分の希望や思い(髪を染めたい・外へ出て散歩がしたい等)を言いやすい雰囲気づくりに努めている。「~したい」の思いを大事にしている。困難な場合は、表情や動きから思いをくみ取り笑顔を増やせる努力をしている。	日常から、利用者の希望や思いについて、言いやすい雰囲気づくりに努め、髪染めや散髪・散歩など即対応を心掛けている。表出困難な人は、表情や動きを細やかに観察すると共に家族からの情報を取り入れ、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族に、これまでの暮らしぶりを聞きとる。介護サービスを利用されていた方は、利用中の様子等、事業所から情報をいただく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に、1人1人の心身の状態を報告する。職員全員で共有できるよう、申し送りノートを作り、漏れのないように対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは3か月に1回と様子が変わるたびにに行い、介護計画は6か月に1回見直しをしている。申し送り時やミーティング等で、個々の状態を確認し合い、家族の要望を反映した介護計画を作成し、同意を得ている。	日頃の状況や家族からの情報など記録に残し、職員で情報共有している。モニタリングは3か月毎、見直しは6か月毎に行っている。状況変化時はその都度、ケアマネージャーを中心に内容を変更している。介護記録は計画に沿った記録をしており、経過がわかりやすい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録すると共にサービスチェック表を作成しサービスが実践出来たかを確認している。個々のその日の様子を申し送り時に口頭で詳しく伝えプランに沿った介護記録に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の主治医はいるが、他科の受診が必要になれば送迎・付き添いを行っている。ADLの変化の状態に合わせた対応を多職種の連携で本人・ご家族と相談しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の現在は難しいが、小学生や中学生の職場体験、地域の方による美美容室を利用し、本人が楽しみや喜びを感じ生き生きと生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医への受診希望が多く2週間に1度の往診がある。入居者の状況を細やかに報告し連携している。緊急時(夜間も含む)の対応も速やかで入院が必要な場合も医師との連携がスムーズである。医療機関への受診は職員で対応している。	入居時に説明し、希望のかかりつけ医として入居している。2週間に一度の往診があり、利用者の状況を細かく報告し、医師との連携ができています。夜間・緊急時も速やかに対応できる体制になっている。受診は職員が対応している。歯科は近所の歯科に受診したり、必要時往診を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ひとりひとりの日々の状態を介護者がしっかり把握し、看護師に気づきや状態の変化を報告・相談している。入居者の状況を医師に連絡し、速やかな対応を心掛け支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームの協力医に相談して入院先への受け入れ対応がスムーズにできる。入院期間には面会に訪れ、病院関係者との情報交換や相談にも努めている。入退院時の送迎は事業所で行い家族にも安心を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、入居者・家族には指針に基づいて説明し理解を得ている。その人らしい最期を安心して迎えられるよう医師・看護師・職員が連携を密に家族の意向を確認しながら看取りを行っている。支援体制を整え対応する事で多くの家族からは感謝されている。	入居時に指針に基づいて説明し、利用者・家族の理解を得ている。状況変化時には家族の意向を確認し、医師・看護師・職員が連携して看取りの支援をしている。職員はケアなどについて振り返りを行い、取り組みを共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えて、職員が慌てる事のないよう、マニュアルを作成し、医師との連携を図るよう方針を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災・通報・避難訓練を、夜間と昼間を想定し行っている。事務所に緊急時の対応のマニュアルを貼り、全職員が対応できるように備えている。災害時の対応として水の備蓄と食料に関しては社内で協力体制が整っている。	火災・通報・避難訓練を年2回、昼と夜の想定し、隣接する同法人の事業所と協力して実施している。振り返りを行い、全職員が対応できるように情報共有している。水の備蓄があり、食料に関しては法人内で協力体制ができている。	利用者・職員の安全のため、筆筒の上などの物品の整備を行ない、地震時の落下防止に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分の親なら」との思いを常に持って対応している。一人ひとりの入居者を理解し遠慮せずに話し合える関係を築き、思いを尊重し寄り添った対応ができるよう努めている。入浴時等は同性介助をするなど配慮している	呼びかけは基本「さん」付けで行うが、本人が笑顔になるように、個々に届きやすい呼びかけをしている。個人情報保持の勉強会を開催し、申し送り時は、個人名は避けたり、小声で行なうようにプライバシー保持に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～でもよろしいですか？」との声掛けを心掛け「～したい」の希望・訴えには出来るだけ意に沿えるように対応している。普段から言葉以外のスキンシップを心掛け思いを伝えて頂ける環境づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何を優先すべきかを考え、入居者第一の対応を考えている。本人の出来る事・したいことを自分のペースでして頂き、家庭的な生活・押し付けない・取り上げない自由な生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される方には職員が毛染めを行う。男性には毎日の髭剃りを促し、身だしなみを整える支援をしている。コロナ禍の中ボラティアでの散髪が難しいのでその方にあつた間隔で御家族の了解のもと職員が散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き取り、メニューに入れ、旬の食材を季節を感じていただける様に手作りしている。音楽や会話を楽しみながら食事をして頂けるよう努めている。野菜の皮むき・机やおぼん拭き等、出来る事をさせていただく事で「一緒に」を大切にしている。	本社のメニューを参考に、2カ月毎にスタッフが交代で献立を立てている。利用者の希望を取り入れ、旬の食材を使って手作りの食事を提供している。ホットケーキ・ワッフル・ケーキ作りなどのおやつ作りも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事量や水分摂取量を把握し、不足している部分は嗜好品や栄養補助剤でバランスをとっている。要求される方には、夜間でも水分摂取ができるように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分でできない方や、十分なケアが出来ていない方は職員がしっかり援助している。うがいが出来ず飲み込まれる方には、お茶での対応をしている。自身でできる方には口腔ケアを促す声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の入居者の排泄パターンを把握し、その都度声掛けを行い、トイレでの排泄・パット交換を行っている。排泄介助の要望も先延ばしせず、すぐに対応できるよう努めている。夜間は1人ひとりの状況に応じて対応している。	排泄記録によりパターンを把握して声掛けをし、仕草や表情から察知して誘導するなど、トイレでの排泄を支援している。体操や運動・散歩をすること、トイレでの排泄支援を続けることで、残存機能の維持にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、軽運動を行ったり、水分摂取量や排便チェックを記録し、早めの便秘解消に努めている。入居以前、便秘だった方もコントロールでき、スムーズに排便できるようになった方も多くおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回、体調確認を行い楽しく会話しながら入浴して頂けるよう支援している。機械浴の設備もあり、すべての方が湯船に浸かることができる。異性の職員による入浴介助を嫌がる方には希望を受け入れ対応している。	月水金土の午後に、週2回入浴している。機械浴により全員が浴槽につかっている。会話や歌を歌うなど楽しく入浴できるよう支援している。湯上りに保湿剤を塗布するなど、個々に皮膚のケアに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて、日中は自由に横になっていただき、夜間は本人の希望に沿って照明などを調節し、安心して休めるように対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬量と副作用に注意し、状態観察に努めている。薬は器に入れ、食前・食後に職員が声掛け行い手渡し、必ず服薬確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業・散歩・読書など出来る事・したい事を把握し、毎日のレクリエーションに取り入れられたり、メリハリのある一日となるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自然環境に恵まれて車の量も少ない為、個々の体調に合わせて、玄関先に出るの日光浴など日常的に取り組んでいる。コロナ禍に配慮しつつ家族の協力を得てペイファームへ花を観にドライブしたり、動物園や花火を見に行くなど、外出の支援を行っている。	日光浴を兼ねて、玄関先で魚釣りやお玉リレー・ボール遊びなどのレクリエーションを行っている。庭の散歩やゴミ捨てを一緒にするなど個々に合わせて外気浴をしている。感染防止をしながら、家族の協力を得て花見ドライブなどもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は難しいが、家族の了解のもと、欲しい物の購入を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したいとの訴えや家族からの電話には椅子を準備し、ゆっくり会話が出来る様に対応している。レクリエーションに絵手紙を取り入れ郵送する支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎朝掃除・消毒し、清潔を保っている。空調はこまめな温度調節を行い管理している。トイレは利用者が集うホールからは直接目につかない場所にあり、羞恥心への配慮をしている。入居者と季節に合った壁面づくりや習字を飾り季節を感じられるように努めている。	ホールは吹き抜けで、ゆったりした空間になっている。清掃が行き届き、室温・採光など適切に管理されている。壁面に季節の作品や習字などを飾り、季節感や意欲につながっている。利用者と職員と一緒に誕生ケーキ作り、歌やゲームなど楽しく過ごしている。2か所のトイレは廊下の端にあり、プライバシー確保ができ、生活リハビリとして筋力機能維持の役割を担っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファを置いたり、畳を敷いた場所づくりをして、自由に使用できる空間を作っている。居室には好きな時間に戻られ、時には仲のいい方の居室にお邪魔し楽しく話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの個性を感じさせる居室にと、家族の写真や、手作り品・誕生祝の色紙・使い慣れた家具等、居心地よく過ごせる工夫をしている。	家族と相談しながら、使いなれた家具や好みの置物を配置している。家族の写真・自作の習字や折り紙、誕生日や敬老の日のメッセージなどを飾り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで安全にし、トイレ・洗面・居室の表示で自立した生活が出来る様に工夫している。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	地震時にタンスや食器棚の上の物品が落下する危険性がある。	利用者・職員の安全の為に、落下物防止の整備を行う。	タンスや食器棚の上の物品を取り除く。転倒防止の為に整備を行う。	2ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(別紙4(3))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( )
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他( )